



近代
 西遊魂得瓶編
 上

2382





靈魂得脱物語序

京師 柳 子 比 僧 出 時 孝 感 の 奇 特 哉
 書 たり 州 業 と 聖 批 の 報 應 哉 託 する
 漢 文 子 以 携 乃 へ 来 て 云 淨 業 の いた 由 訂
 正 一 玉 へ 一 や 分 け しく 是 哉 見 る 小
 古 今 の 政 事 たり 比 似 り 日 裸 の 明 由 子
 國 陋 なる あり 見 ぶ 徳 して 一 本 ち 孝 感
 冥 祥 録 名 々 彼 傳 方 へ 幸 一 々 終 ば

上

京州の林澤田氏を請く版行し
 其の都の人田の如く外りもてるや一今
 其の如くハキ美録初摺出せりや
 得脱縁ハ布グ許り然一毫ク成以日大
 其を井河内屋正茶々云者め一々
 及び之再三来と切り乞ひ一與へ侍
 了ぬ傳文を依筆讀ぐ況義理成
 解は右サなりけりや一在家の人を為
 可杜矣等一和文字了譯一男
 是或漢人聖批の過意成一佛法不則
 議の利益を以申の道とし止惡修善者
 心一或起人何らバれ予ハ心一なり

臨水軒西隱傳阿彌

靈魂得脱物語卷之上

女の毫執の一念にては靈を死具と更にと悔し造じり事

毎の智儀の教化小後て五魔成伴得脱せし事

於是法盧法性以成就し解脫の門を精練し終に貴信あり。

亦是以天叡和尚と號を原出羽國最上天石田の庵小して

同國新庄桂岳寺台雲和尚の之徒あり壯年以知願を

府と号し洛の東福寺の象海師小酒ひ妙演小三素を

を同一字不脱の禪法ひききあひ名奉の視子あてかり

法を其法生靈死具の支魔也若惱ける者以歸身

成佛の事あり是希代の殊事なりといふも怪力亂神と洛

らどとて姑く秘匿す末世の衰生と吾道小末をあらんとすに記
ぬ其後未だ厚なる志享保年中に京師精茶師通る舎の舎小松
を徳言揚そ紅紙をある者あり又京洞院二條小松を徳言とすの
の娘と娶て妻とせり年積むとも子あり年積むて南村聖天
その徳言法小妙を得る智積院の泰吉坊となつて男ふ法
ける妻あり夜の夜ふけ方よりも知は失雁おる神樂と家に
合ふとて好身とておりの春吉坊にゆへ中世に於て神符と
ふく清きあふ服は出夜の時其子必し極て存じとてとる
多る昂るまは頂戴とて教の如く服を穿たざるもわりの積
く月満とてと春果てたのいのもは極てと徳言坊とて

始り森内太ふ収ひ且八石思致ありと後嘆けける此小児ハ
人は勝未頼母の年齢に八ふ代を坊と助と名付たり
け子成長ふとてかひを致顔ふあまりて幸近英少人とぞ
貴ける享保十四己酉此年に八坊と助十四歳ふある若子用
帳あり芝居行わハ祇園の教坊有茶師とて坊と助と名付
若き女の目を送り顔とてんして道を踏踏するも此多し此年の
秋文月の夕ぐれ盆踊ふおるる縁起ありおりろく梅とて
ろくとそ人の女見物の中より見入る縁起にひいと受たり
そしより毎夜夢ふかの女を執の顔とて坊と助が枕元に
来り通宵語り語りける坊と助甚くおろくおひ森内も徳

夕れども。させる事ともおもひ。いふに代せおどけ言にいひ。あはれある
女など。愛ふたり。こも来よ。かど愛ひ。其女に。いふれ者も。知り
ける。が。つ。増し。助と。深く。執る。弱ま。身。親の。元。外。さ。一念。生
具と。成て。増し。助。が。家。に。来。立。松。發。其。陰。の。と。付。添。る。さ。し。も
増し。助。ハ。身。を。し。め。さ。る。る。母。親。の。お。で。ん。増。助。が。執。り。お。さ。さ
苦。小。病。て。増。し。今。年。九。月。廿。九。日。サ。不。牙。す。り。ける。其。病。中。より。里。袋。を
家。内。醫。療。に。心。と。配。り。他。は。清。内。候。も。毎。日。尺。筋。不。来。り。る。ゆ。ゆ。埋。女。の
か。や。も。付。添。お。任。心。不。宿。志。多。時。増。し。助。ハ。足。を。し。を。委。せ。て。起。所。の
も。忘。ま。は。さ。さ。さ。さ。人。同。し。の。し。散。て。は。外。に。お。さ。さ。さ。と。為。病。し。て
思。出。の。い。牙。に。ま。く。瘦。せ。け。て。終。ふ。い。は。十。月。首。を。さ。さ。さ。さ。死。具

の根。お。ち。り。い。か。や。が。親。元。ハ。七。条。五。伏。尺。勘。道。道。に。在。六。条。清。と。云
者。の。娘。あり。忽。同。月。廿。九。日。昔。儀。不。例。と。て。本。性。と。先。の。親。色。を。お。眼。を
血。ま。り。心。持。割。志。多。分。岐。を。し。い。家。内。本。騷。ぎ。取。之。使。と。致。医。術。妙。茶。と
求。め。下。益。神。れ。と。又。て。后。回。の。い。は。も。さ。れ。も。又。お。さ。さ。さ。さ。も。さ。さ。さ。さ
舞。ら。ま。し。い。親。族。亦。お。孤。親。の。お。お。あ。ん。と。て。修。治。傷。を。待。じ。祈。禱。を
お。ま。り。お。お。笑。ひ。お。も。猶。あり。父。性。清。常。に。深。法。と。信。じ。大。般。希。徳。の
理。趣。分。と。心。を。づ。ふ。演。補。す。し。も。是。も。信。ず。家。内。怪。を。果。て。て。居
ら。る。形。て。は。昔。も。同。ド。事。を。し。い。親。族。慈。想。む。さ。り。を。り。甚。頃
東。福。ち。に。結。制。の。大。意。け。り。ける。衆。傍。一。條。の。托。鉢。と。知。同。首。た。も
か。ま。ひ。り。か。み。て。お。任。心。と。八。魂。の。中。さ。れ。い。長。老。に。ひ。り。と。ひ。り。り。り

まてならあやふ。此書大よまらふ。後よ船を。増く助がえん。次
より此容神。通一よかりける。知剛首座。ふとすて。醫術乃
滞もたぐ。修徳の言。傍連のまに。えあま。しる。病を。い。く。せ。ら
る。病。が。ら。し。て。平。倉。と。せん。こ。し。叶。が。は。ま。て。ま。ら。増。く。助。が
病。床。よ。入。た。ま。し。て。勢。く。妻。居。し。只。何。も。なく。袖。子。と。ま。り。て
坐。禪。し。け。る。に。病。を。其。傍。傍。ふ。あ。り。け。る。經。儿。と。し。て。經。成
て。曰。く。い。は。れ。ど。知。剛。曰。く。觀。音。經。也。又。一。卷。と。云。く。同。言
て。曰。く。金。剛。經。也。又。一。卷。と。云。て。同。言。て。曰。く。法。華。經。也。如。是。五。卷
と。同。言。て。不。理。趣。分。と。云。て。同。是。何。ぞ。知。剛。曰。く。此。は。大。般。若。經。也。
分。り。病。を。か。曰。く。此。經。を。讀。ま。せ。あ。り。ん。哉。知。剛。大。悲。心。と。起。し

本末は如の中一。是速て種。の業果と感。情。し。き。契。り。也。と。て。
知。剛。即。時。音。被。た。ま。し。欽。ぐ。理。趣。分。を。し。め。し。り。り。り。
經。の。す。ま。り。む。ら。し。て。病。を。志。ま。り。し。不。感。は。し。く。讀。經。せ
て。了。つ。て。音。が。云。は。し。中。よ。志。如。し。い。へ。り。ハ。い。成
事。し。て。い。や。し。知。剛。云。は。凡。夫。賢。聖。人。平。等。無。高
下。此。二。句。ハ。井。所。此。佛。性。の。事。なり。抑。け。佛。性
ハ。佛。し。も。生。く。も。増。す。り。事。なく。凡。夫。よ。生。て。も
減。ぢ。り。あ。く。な。れ。ど。悟。り。り。成。佛。や。り。い。の。迷。へ
し。を。救。せ。し。ふ。り。り。と。示。し。り。れ。ハ。病。を。志。ま。り。分。り。り
り。き。り。り。讀。經。し。り。り。病。苦。を。志。ま。り。り



ハハ界乃人トみゆと時お後ひくノかきこ
やわんまをわらふことなまをくくはるま
言へんくく子中結りて家人平成とんて
よまへられバハく身り色わんく予成もま
眼ノ暇 知國傳理分或讀バ病悵又新
時病常象海よんてん事成ねふ文を仰
く本儀を諸師史やほきく来る文し福の
成るりられバ師病常れ儀とて福仰一且は
演きくを三版を授けらきくハ病常悵く環
受一がりくへ向く人とそののわおよ子へ

傍人の耳ハハさくふずなる事なり
病悵多れ定をらぶくハ悵後せり
サつるなり文のよりふハ文なり
きね知國常まよく病中の中定へたる限
ア成かされと常が云けりめれ福ハ女のお
来アせむら事たひくられその終り
一日忽りわわ一き女人成り齡十七八げり
き地成云悵成みぐ眼ハ血成とま
是いう事りる常まよくおはるる
たりのけけりく思ひま案つる

上

七

お持けりしゆ怖しきものん方びしとれん後
を妖女は使しつゝの像をさるるを以て処女の時く
きつゝの如くすて、祓祓以て讀む少時二女を
は、祓祓せらば、一人へ処女は云止まらざる
とて、深妙乃般若以てみたまはりしは、
此の如く、何れも同し、般若を以て
讀人の心也、依りし利益かくるる、
感嘆ししといわ

前、父徳を揚理趣分以讀唯探遣れ心地の
みり住せし靈童と稱して却りぬる今

聞師ハ靈の迷妄以りしき之得脱せりゆん乃
心地にて理趣分以讀ゆんかくりし
とて、つゝ法を以て、光明自蓮坐し、
いふ、眞路以助けし、
妖女は、
來ハ女が以て、
きくし、
海原の彌陀三飯以り、
論廻如旋火汲井論等、
上

せきいへてし知女云々今方去べし忍三
 十采よむんバ婚姻より半ばれ又しが縁
 既し半ばれは二事ありし善なりとせ
 半て清うせぬ妖女云々れ愛欲もも
 分てかりりせしあ懸しじまわたりやへと
 け送縁より依り深法の利益成業半何の幸
 の是よ如んりて度女が婚姻の期成へる半一わ
 かき尚慈悲の情あせいなりとわしめしつら
 ぐあ成書くそあましはさまて門下は新し打
 解し何の善なりん今陣に去べしとてしり
 方よりいふせぬ如く云れ般若成讀しと
 汝其如の名を成同一半成記憶せりやと云
 けきしとて知りて妖女はあまりりべしと回サ
 父東福寺を訪し海師に謝し初食成いと
 みく立十條僧と供養し妖女が返福を擬し
 根帝が着る妖女湯あま云々れ縁よ業し
 其今吾宗よせはこれ備り君が賜ひり云々去
 是成みきバ厄の終りとし白紙成良成成
 幼し向く花行わ明り色は喜保十五か成
 中月六日妖女焼く山くわりよ舊冬に延

上

下



ハハ家も来り奉りびびくりりそはけを成さへた
るやと帝が云父の事いけくハ考の確らるが如
くけ家よ来るを奉り奉り来りて居るもハ
是へいんが記け家よ来り時ハ父が事して者病も
若われ熟帳しやと足ばりりりり二師乃
は是成事りて老執ハ考わしじもつれも
よりりり前後をまも成わ一日つるが此廟り
師を具そく新中へうんやられざりぬるの時
父母親屬なげまかすいき近のおおしり人來り
吊いその後より力成りれり一先給一桶よいきし

奉りて一くられを足ばりしきかくいしを備り
人止るくつざらぶがしそは村さやハ新列り
かだをけるまきまらよと知るねまより棺よ入る
早出らもの送り行老帝がうしよの傍に居
鏡神をいり中侍師此棺前よりは法をそ
るが新考新桶よ大成りけかろどの境一抄子
しては成を考成拾ひていふ法成墳墓の地
まもて傍成父の家よ法に讀物回向りていふ
成倍考一抄成いく考新考親用集り
後をいりし百葉道の称号成修りやと

上

十三

一とを是を見しころより安かすけりて... 國師...
 同 供物を極まりし時... 遠く... 供物を...
 修物... 修行... 心... 信...
 師... 十方... 遠く... 信...
 一... 信... 遠く...
 一... 信... 遠く...

水一掃食... 供... 乃若八年...
 中... 中... 中...
 中... 中... 中...
 中... 中... 中...
 中... 中... 中...
 中... 中... 中...
 中... 中... 中...

何れゆりなり同 中寄ありと東西乃方角何れゆり
 て勝総なる申され方角故命なる事なり同
 清水寺控御寺等其佛宮に宿する事何れゆ
 善方角より分つ事なり何れいつらへ宿する
 事わらんや同 此父母兄弟わらんや善父母何れ
 才き人なるもみ兼なりつる齡ハ十七歳なり哀
 哉宿縁とハいひなごころ一念乃まよひして命
 哉うしなひ父母なげき哉かき一幸悔くも控
 御何れり同 世に宿り子靈此人に託し何れ
 梅指さる入と云ハ善なりや善哉ハ毛孔或は
 中寄よりも入何れ梅指に限らんやや剛脚控
 件をとりよ善哉分つてゆりうん
地蔵菩薩祀り久慈山 帝が云高市を此姓名ハ何れ
の源乃死後と大田 帝が云高市を此姓名ハ何れ
 傍人言く水田丈助と帝が云軽くハ何れなりぬ
よし 是時此人何れかくを控られハ市をり
 本寺より帝丈助と向て云善哉をけ帝に託せし
 のハ我れり然る此人をよめて東京に娘なりと
 云ハ人遠なり軽くハ君わつてはよめく人
 何れきせり東京の娘乃此姓名何れりよべし
 市をり高市にて何れ同 善哉はよめく人

上

〇十五



よむく 姻期をいひ 八何ゆで 着られ 粧を
乃 飾波を 推したまふ 今こそ 何ぞ せむらんや
こそ 帝衣を けしめよ 其 熟 祓 せし 時 我 誰 云
べしと 時 知 ずし 看 侍 の 若し 帝 衣 けし ぬ
し じ 聖 尊 居 の 如し 欠 伴 して 是より 知 ず 其 夜
の 後 多 成 何し 知 女 ありし 半 八 迷 ず 是 へ ぬ
す こそ 也 其 條 八 月 知 ず 事 たりし 知 ず 佛 前
小 看 大 成 儀 へ 後 福 回 向 して 且 如 在 佛 前 靈 了
授 け け け 八 是 三 世 法 佛 如 統 持 相 の 衣 たり 今 乃
世 母 不 授 与 也 後 坊 して 佛 果 不 成 じんと
授 け べし とい け 授 者 又 授 執 して 祓 け じ 候 じ
よ 是 こそ 知 國 語 して 云 こと 事 候 じ 中 一 紙 子 せ
ハ 貞 蓮 妙 林 け 二 女 尼 の 終 ち 少 ぬ 七 階 衣 成 り
け け の 母 也 共 あり 其 中 あり 降 け け け 母 也 尼
の 終 ち 少 ぬ 七 階 衣 成 け け 我 乃 向 て 云 二 女 乃
金 波 ころ の が 及 び 及 び 是 成 事 實 乃 汝 存
なり とい れ 何 母 あり 終 け け け け 母 也 云
今 世 が 及 び 及 び 及 び 及 び 及 び 及 び 及 び 及 び
や され ぬ 追 災 の 吾 根 成 修 け へ して 其 時 二 尼 日
終 ち 云 こと 何 の 事 ぞ 共 あり 女 尼 を 統 して 終

上

〇一六

わく書習のらちあるべしされはむねの
はゆるいお歌の念紙断女は統一
へし半言は信不里漢の威力なり
つと前を考少れば廻縁却る言嫁る云つ
一二女のお執せる言今現はして成せ
や目前のある言見くりあおせや又さ
海くまお家のある言ははくく言
アこれゆへ二女いら成しる言父母はか
成かけし科いんせん人言此一生ハ
たれば王候大人の富貴も夢中の業花なり
れと百年の齡を保つと様を言
家下お此境界何ぞれし言
深衣のがやめく言佛は修りある海か
き半なり言お言の言成る言
と底下に凡言大悔言せん半も
一たふ大言書言言言
よ界お此言言言言
と此言果成感トてハ一日ハ縁言
言言言言言言言言言言
如來の言言言言言言言言言言

上

〇一八

名号はとらへるはとせの終りよらうとせとせとせとせ
 終り極楽浄土へけしせん事何やぬらうとせとせ
 極楽八劫も極楽なりとせの極楽とせとせとせとせ
 増を〜とせとせとせとせとせとせとせとせとせとせ
 得た通りとせとせとせとせとせとせとせとせとせとせ
 現生の父母兄弟の二女并ひとせとせとせとせとせとせ
 まて何まのふよなりとせとせとせとせとせとせとせとせ
 心のゆるる事御釈分りなり海とせとせとせとせとせとせ
 じりり

霊魂得脱物語卷上終

